

県連ニュース

発行 熊本県民医連
発行日 2017年2月20日
発行番号 2017-27
発行者 木原 望

菊陽病院看護部会ニュース♪ 「これって看護の常識？非常識？」

日頃、当たり前のようにしている日常業務って「看護の常識？非常識？大丈夫かな？」から外来・各病棟から日頃の一場面をもちより寸劇部会を2017年1月31日に92名の参加のもと開催しました！

●朝の煩雑な時間の場面

スタッフ2名で配薬カートの薬を配る。転倒などの見守りが1名いる。スタッフは落ち着きがなく、転倒のリスクが高い患者に、見守り1名では対応しきれず配薬のスタッフも対応せざるを得ない状況。配薬のスタッフが手薄になると配薬の引き出しを触ろうとする患者もおおり、病棟全体がざわざわとし、業務に集中できない状態になる



●衣類の汚れ

食事摂取時エプロンをつけても衣類を汚してしまう患者。すぐ着替えさせないといけないが、着替えに抵抗やOTの時間が近づきスタッフも業務に流され、つい、そのままになってしまう事がある。

●血圧・体重測定

一斉に体重測定を行い、数値を声に出す事でプライバシー保護が出来ていない。体重測定の流れて血圧測定。



●「荷物チェックの場面」

外出泊後に私物チェックを行うが、カウンター越しに行いプライバシー保護が出来ていない。病棟の約束事である持ち込み物を守ってもらいたいが、上手く患者に理解してもらえなかったり、説明するスタッフによって違う説明をしている事がある



●NSコールの対応

NSコールが鳴った時コールで会話をして済ませようとした。集音コールが鳴っても、いつもの事だからと放置したり、患者の状態観察をせず安易に頓服で対応しようとした。



●患者対応

患者をちゃん付けて呼ぶ場面と検査説明を口頭のみで行い、患者が理解できておらず、検査が出来なかった。



(感想)・今回の部会は、おかしくもあり、真面目な部会でした。

- ・今回のテーマと内容は、職場全体で取り組み、日常業務での姿をあらためて考えるきっかけとなりとてもよかった。
- ・業務に流されるのではなく、「患者の立場にたった看護」についてしっかり話し合うようにしなければいけない。
- ・日々の場面においても、気づいた事は、そのままにしないで、お互いが言えることが大切

☆今後取り上げてほしいこと☆

●個人情報について

興味本位で電子カルテから患者の情報を取ったり、詰所で個人情報を話したことで他の患者に聞かれてしまった。患者が110した時、警察からの問い合わせに聞かれるままに伝えてしまった。

- ・川嶋みどり先生の「てあて」・プライバシーの問題について
- ・接遇の学習会・夜勤勤務体制について
- ・今回の企画が良かった(2回目してほしい)
- ・緊急時の対応、事故防止対、暴力対応